

国内クレジット認証委員会御中

審査結果概要書

平成25年2月22日

審査機関名 日本海事検定キューエイ株式会社

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	黒松内温泉におけるヒートポンプシステム導入による省エネルギー事業
排出削減事業者名	黒松内町
排出削減共同実施事業者名	公益財団法人 北海道環境財団
事業実施場所	黒松内温泉 ぶなの森（北海道寿都郡黒松内町字黒松内 545 番地）
事業の概要	黒松内温泉において従来 A 重油焚ヒーターで行っていた給湯および温泉の循環加温をヒートポンプで代替する事で A 重油消費量を低減し、地球温暖化の抑制に貢献することを目指すものである。
排出削減量の計画	2012 年度：8 tCO ₂ /年 (事業実施期間合計 8 tCO ₂ /年) 電力の炭素排出係数は、全電源方式を採用。
国内クレジット 認証期間	事業開始日 2013 年 3 月 1 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 002：ヒートポンプの導入による熱源設備の更新

2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している。

3. 実施した審査手続きの概要

審査手続きにより、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続き
日本国内で実施されること	<p>本排出削減事業が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認した。</p> <p>排出削減事業実施場所：北海道寿都郡黒松内町字黒松内 545番地 黒松内温泉 ぶなの森</p> <p>事業実施サイトの視察日付：2013年2月19日</p>
追加性を有すること	<p>1) 法的義務がないこと</p> <p>本排出削減事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものでもなく、CO2 排出量の削減を目的として実施されたことを本排出削減事業者への質問等により確認した。</p> <p>2) 設備が継続利用可能であること</p> <p>本事業が実施されなかった場合には、既存設備が継続的に使用可能であることを、質問、関連資料の閲覧、および事業サイト訪問時の視察により確認した。</p> <p>3) 投資回収年数</p> <p>本排出削減事業の投資回収年数において、補助金、設備投資額に基づき計算し、4.5年であることを、事業者への質問、エネルギーコスト試算値に関して入手した根拠資料、及び検算により確認した。</p> <p>4) 追加性判断における定性要因</p> <p>当事業者は、地球温暖化防止を社会的責任として重要課題と考えている。また、国内クレジット制度を活用するによる効果的なPR効果、省エネルギーなどの社会貢献などを考慮して当事業に至ったことをヒアリング等により確認した。</p>
自主行動計画に参加していない者により行われること	<p>自主行動計画に参加していないことについては、排出削減事業者及びその他関係者への質問により、自主行動計画に参加していない事業者であることを確認した。</p>
排出削減方法論に基づいて実施されること	<p>1) 本排出削減事業は、承認排出削減「方法論番号002：ヒートポンプの導入による熱源設備の更新」方法論の適用条件を満たしていることを確認した。</p> <p>【方法論番号002：ヒートポンプの導入による熱源設備の更新】</p>

	<p>適用条件 1 については、既存のA重油ヒーターよりも高効率のヒートポンプシステムへの更新する事業であることを現地視察および設備仕様書の閲覧等により確認した。</p> <p>適用条件 2 については、導入するヒートポンプシステムは温水を製造することを現地視察および資料閲覧等により確認した。</p> <p>適用条件 3 については、既存のA重油ヒーターに故障はなく、仮にヒートポンプシステムへの更新がなかった場合においても継続して使用することを現地視察および資料閲覧等により確認した。</p> <p>適用条件 4 については、設備で製造する温水は全量当該施設で使用され、他社への供給はないことを現地視察および資料閲覧等により確認した。</p> <p>2) 全ての既存設備の使用年数が法定耐用年数である 15 年の 2 倍 (30 年) を超えていないことを、質問・関連資料の閲覧により確認した。</p> <p>3) その他、バウンダリの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリングの方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認した。</p>
--	---

上記の詳細については、別紙「排出削減事業の要件についての確認事項一覧」を参照すること。

4 . 特記事項

特になし

以上